



平成17年度(2005)秋季地区予選

J(希望ヶ丘)	希望ヶ丘	横浜立野	保土ヶ谷	日大	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		6-7	6-3	3-10	1	-5	3
横浜立野	7-6		2-10	1-5	1	-11	4
保土ヶ谷	3-6	10-2		4-5	1	4	2
日大	10-3	5-1	5-4		3	12	1



平成18年度(2006)春季地区予選

Q(横浜商大)	希望ヶ丘	氷取沢	城郷	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		2-9	9-11	0	-9	3
氷取沢	9-2		4-2	2	9	1
城郷	11-9	2-4		1	0	2



第88回全国高校野球選手権神奈川大会

【1回戦】

7月12日 秦野球場

試合時間 2時間 15分

ひばりが丘 0 1 0 0 1 0 1 0 3 | 6

希望ヶ丘 0 0 0 3 3 0 0 0 1x | 7

(ひ) 釘尾-川島

(希) 渡邊友、江波、内山-板垣

▽三塁打 板垣 2 (希)

▽二塁打 猿田 2 (ひ) 大橋 (希)

▽犠打 ひ 3 (香取、釘尾、高橋) 希 4 (渡邊友 2、金守 2)

▽盗塁 ひ 1 (生方) 希 4 (下城、椎野 2、大橋)

▽失策 ひ 1 (生方) 希 2 (渡邊友、金守)

【2回戦】

7月16日 大和引地台球場

試合時間 1時間 37分

希望ヶ丘 0 0 0 0 0 0 | 0

桐蔭学園 0 6 7 0 X | 13

(五回コールド)

(希) 大橋、内山、江波-板垣

(桐) 春山、中畑、渡邊-山内

▽二塁打 山内、鈴木、戸田 (桐)

▽犠打 希 2 (下城 2) 桐 1 (井領)

▽盗塁 希 0 桐 3 (石橋、尾高、八幡)

▽失策 希 2 (江波 2) 桐 1 (原)

▽暴投 内山 (希)

皆さんこんにちは。K-59の椎野と申します。今回は創部120周年の資料集を発行されるという事で寄稿させていただきます。改めて母校の歴史の長さを感じております。試合結果も掲載されているという事ですので、夏の大会を中心に3年間の思い出を書かせていただきます。

1年生の時、春の県大会でベスト16に入り、夏の選手権大会は第三シードで迎えることになりました。当時私はベンチに入っておらず、スタンドから応援していました。シード校として初戦の川崎北戦を迎えましたが、結果は初戦敗退。悔しい結果になってしまいました。

2年生の夏の大会の初戦は2回戦の横浜緑ヶ丘戦でした。横須賀スタジアムで行われた試合は、希望ヶ丘が先制、追加点を取るなど序盤は主導権を握って試合を進めていました。しかし、徐々に追いつかれ、9回裏2死満塁のサヨナラ負けのピンチを迎えました。カウントは2-3。ボールも許されないというとても緊張した場面でした。当時キャッチャーで出場していましたので、最後の1球は投手を信じてミットを構えておく事しかできませんでした。投げられた球はストライクゾーンへ入っていましたが、打者が打ち返し、打球は無情にもセンター前へ抜けていきました。とても悔しいサヨナラ負けでした。

夏の大会で1勝もできていないまま迎えた3年生の大会は、主将という立場で参加しました。抽選会でくじを引くと、第一シードの桐蔭学園の真下。部員に対してとても申し訳ない気持ちでいっぱいだったことを覚えています。初戦はひばりが丘戦。前年とは反対のような試合展開でしたが、9回裏サヨナラ勝ちのチャンスが来ました。打者(椎野)の放った打球はショートの手元を抜けて(記録はエラー)サヨナラ勝ち。最後の大会でようやく校歌を歌う事ができました。2回戦の桐蔭学園戦はレベルの違いを痛感するコールド負けでした。

このような具合に、自分たちの代ではなかなか良い結果を出すことはできませんでした。それでも、目標に向かって仲間と共に過ごした日々はかけがえのない大切な思い出です。特に自主性を重んじる希望ヶ丘の校風があったからこそ、やらされる野球ではなく、自分たちで考えてやる野球を経験できました。これはその後様々な場面で活かされていると思います。

最後に、当時監督の吉野先生から言われていた言葉でとても印象に残っているものがありますのでご紹介して終わろうと思います。「感謝の気持ちと謙虚な姿勢」。とても素敵な言葉だと思い、高校を卒業してからも座右の銘を聞かれた際はこの言葉を出していました。松下幸之助の本にも「大切なのは感謝と謙虚」と書いてあるのを読んだときにはじわりと来るものがありました。これからは「感謝の気持ちと謙虚な姿勢」を忘れずに過ごしていきたいと思います。なかなか母校との関わりを作れておりませんが、今後ともよろしく願いいたします。読み辛い文章で失礼いたしました。